

資料配布の場所・日時

1. 筑波研究学園都市記者会
2. 国土交通記者会
3. 国土交通省建設専門紙記者会
4. 北海道庁道政記者クラブ
5. 札幌市政記者クラブ
6. 北海道開発記者クラブ
7. (株)建設行政新聞社

日時：令和8年 3月 31日 (14:00)



国立研究開発法人土木研究所
令和8年3月31日

30年間の全国データから、川魚が好む環境を“見える化” ～ネイチャーポジティブ*な川づくりの計画・設計に活用～

※生物多様性の損失の流れを止めて回復に反転させること

全国の河川（一級水系）で実施されてきた「河川水辺の国勢調査」、約30年（1992～2023年）の長期データを活用し、「確認された場所」に着目することで、魚類がどのような環境*を好んで生息しているのかを全国規模で定量化し、見える化しました。本成果は、魚類の生態的特性を踏まえた河道計画や保全すべき魚類へ配慮した河道設計を行うための定量的な基礎データとして活用することで、今後のネイチャーポジティブな川づくりの実現への貢献が期待されるほか、魚類の基礎的な情報としても有用です。【河川における魚類の生息環境選好特性の全国的整理：参考資料参照】
※流速、水深、水温、河床勾配、河床材料、セグメント、水際、水域環境（瀬・淵、干潟など）

ホームページに上記を含む「土木研究所資料」「共同研究報告書」を掲載しました

1. 掲載資料

○土木研究所資料 * 研究所において実施した調査、試験及び研究の成果又は調査、試験及び研究を進めていく上で必要な資料をまとめたものに係る研究の成果をまとめたもの。

資料NO	タイトル	著者
4466	令和6年度下水道関係調査研究年次報告書集	材料資源研究グループ 流域水環境研究グループ 水質チーム
4467	河川における魚類の生息環境選好特性の全国的整理	流域水管理研究グループ 流域生態 チーム・自然共生研究センター

○共同研究報告書 * 共同研究に係わる研究の成果をまとめたもの。

資料NO	タイトル	著者
625	融雪水浸入と凍結融解作用が路盤に及ぼす影響に関する研究	寒地保全技術研究グループ 寒地道路 保全チーム 他
626	雪氷気象データを利用した流域詳細な積雪変質・融雪の推定	寒地水圏研究グループ 水環境保全チ ーム 他

2. 掲載先 以下のウェブページから閲覧できます。

- 土木研究所資料 URL : https://thesis.pwri.go.jp/public_kanko/100/2025/
- 共同研究報告書 URL : https://thesis.pwri.go.jp/public_kanko/110/2025/

【問合せ先】	国立研究開発法人土木研究所	企画部業務課	課長	かなざわ	てつや
				金澤	哲也
				主査	片岡 貴之
				かたおか	たかゆき
				電話番号	029-879-6754

約30年間の河川水辺の国勢調査の長期蓄積データを活用し、魚が見つかった場所の特徴や流れの速さなどの環境条件を分析することで、魚の種類ごとに「どのような場所に生息しやすいか」を見える化しました。これにより、川づくりの計画や設計の際に、生きものに配慮した取り組みに役立てることができ、ネイチャーポジティブの実現への貢献が期待されます。

1992年～2023年までの河川水辺の国勢調査で確認された魚種のうち132種を対象に生息環境の選好特性を整理

アユ



中礫から中石を主体とする礫質河床を好み、水域環境として瀬を選好する傾向が示された。

ミナミメダカ

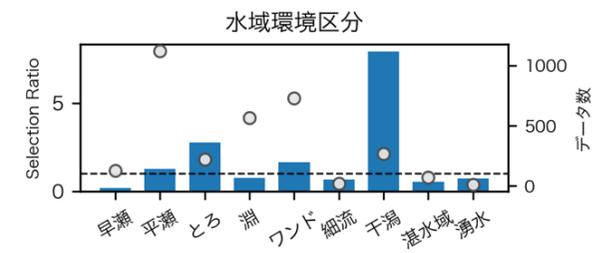
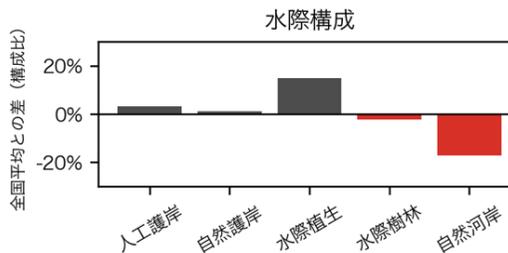
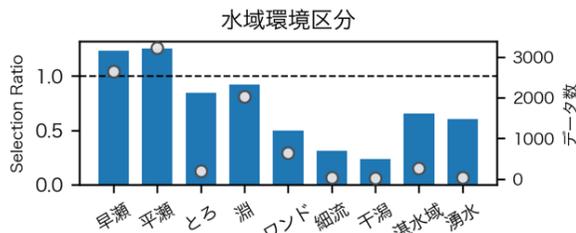
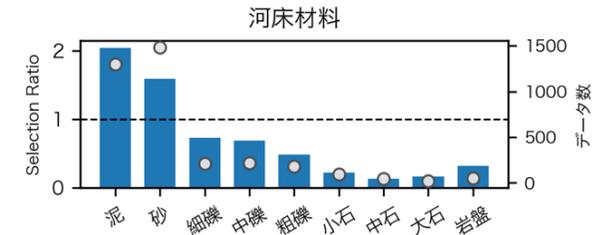
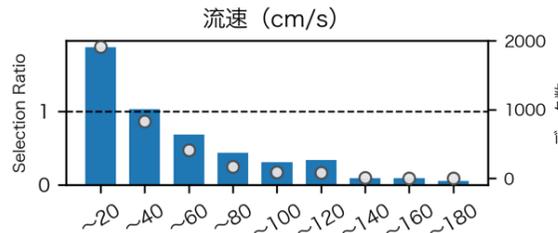
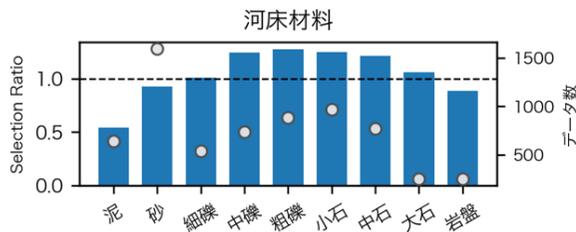


緩流環境への選好が見られ、水際植生を伴う水際環境を選好する傾向が示された。

マハゼ



汽水域に発達する砂泥質の干潟への選好度合いが高いことが示された。



■ Selection Ratio ○ SR計算対象データ数

Selection Rate (SR) : 「ある魚種が確認された地点のうち、当該環境条件に該当する地点の割合」と「全調査地点のうち、当該環境条件に該当する地点の割合」の比